

# みなとしみず

国土交通省中部地方整備局  
**清水港湾事務所**  
 御前崎港事務所/下田港事務所/田子の浦港事務所  
 静岡市清水区日の出町7番2号  
 TEL. 054-352-4146(代表)  
<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>

## 特集号 海フェスタしずおか

～ 清水港開港120周年 ～

### おめでとうございます ～「港湾関係功労者等表彰式」～

7月18日(木)グランシップで開催された海フェスタ記念式典をはじめ、7月22日(月)KKRホテル名古屋、7月30日(火)清水港湾事務所において、港湾振興発展などに貢献された20人(団体含む)の功績をたたえ表彰を行いました。受賞者は以下のとおりです。

#### 国土交通大臣表彰

##### ○海事関係功労

株式会社橋本組 橋本 勝策 様



<表彰式の様子>

#### 中部地方整備局長表彰

##### ○永年勤続

株式会社古川組 古川 勝 様  
 鈴与建設株式会社 松浦 真明 様

##### ○港湾振興発展

駿河湾海を守る会 様  
 特定非営利活動法人 SEA WEB 様

##### ○海をきれいにするための一般協力者

有限会社シーフロント 様

##### ○優良工事

青木建設株式会社 様

##### ○優良工事技術者

青木建設株式会社 木附 光弘 様

#### 清水港湾事務所長表彰

##### ○海をきれいにするための一般協力者

松崎ポートクラブ 様  
 チームつながり 様

##### ○優良工事

河津建設株式会社 様

##### ○優良業務

三洋テクノマリン株式会社 名古屋支店 様

##### ○優良業務技術者

三洋テクノマリン株式会社 名古屋支店  
 立石 賢吾 様

##### ○優良工事協力会社

有限会社平野潜水工業所 様  
 有限会社西尾建工 様  
 日本海上工事株式会社 様  
 井上工業株式会社 様  
 第一ダイヤモンド工事株式会社 様  
 株式会社下田電化設備工業 様  
 有限会社藤井建設 様



<表彰状贈呈の様子>

# 港の整備を遊んで、学べるブースを出展！

「海の恩恵に感謝し、海洋国日本の繁栄を願う日」という「海の日」本来の意義を再認識する機会として、毎年、海にゆかりのある全国各地の自治体で「海フェスタ」が開催されています。今年度は開港120周年を迎える「清水港」において7月13日（土）～8月4日（日）の23日間にわたり、「海フェスタしずおか」が開催されました。

期間中、多様な船の一般公開や講演会など様々なイベントが開かれました。なかでも、メインイベントとして清水マリニビルにて開催された「海の総合展」では、「海のことを分かりやすく、楽しみながら学べる」をテーマにしたパネル展や模型展示が行われ、当事務所においても関係する協会等の協力も得て、体験型を主にしたブースを出展しました。

海の総合展には、お子様からお年寄りまで多くの方にお越しいただきました。見学者の方からは、「海にある消波ブロックの形が気になるようになった。」、「大型のクルーズ船をつけるための係船柱の大きさを間近で体感してとても驚いた。」、「波の力と防波堤の必要性が理解できた。」などの声が聞かれました。

今後も様々なイベントを通して、港湾の重要性や港湾施設の特徴などの情報の発信をおこなっていきます。

## ブース紹介

### 【日の出岸壁 超大型200t 係船曲柱の模型展示】

世界最大級（350mクラス）のクルーズ船が着岸できる超大型係船曲柱が整備されている事を知って、体感。



### 【体感！防波堤実験模型】

防波堤には、港の中の波を穏やかにし荷役などの港湾機能を向上させる効果や、津波のエネルギーを減じて私たちの生活を守る役割がある事を体感。



### 【一目でわかる港湾構造物の特徴（岸壁模型）】

岸壁は船を停めて、貨物の積み降ろしや人の乗り降りをするための港湾構造物。そのほとんどは見えない水中の中で色々な構造が組み合わされて築造された特徴を持つ。



### 【じつはとっても大事な仕事☆潜水土】

港湾構造物の整備や維持に欠かせない水中作業を担う潜水土は、重要かつ特殊な仕事。海の工事では、じつは多くの潜水土が活躍していることを知る。



### 【楽しく体験！ミニチュア消波ブロック製作】

ミニチュア消波ブロックの製作体験を通して、海に設置してある消波ブロックを身近に感じる。

たくさんの消波ブロックをうまくかみ合わせて海に並べる事で、波の力を弱める役割を果たす事を知る。



石膏を使ったミニチュア消波ブロック製作



消波ブロック型キャンドル製作

## 大迫力に感動！ グラブ浚渫船「第361良成丸」一般公開

「海フェスタしずおか」の期間中、様々な海洋シーンで活躍する船舶の見学を通じ、海洋文化への関心を高めるため多様な船舶の一般公開イベントが清水港日の出ふ頭で開催されました。

7月20日（土）、21日（日）の2日間は、港を航行する船舶の通り道を整備するために海底土砂の掘削（浚渫<sup>しゅんせつ</sup>）作業の現場で活躍する、グラブ浚渫船「第361良成丸」と気象庁所管で太平洋などの海洋の変化などを観測する「啓風丸」の公開が行われました。

「第361良成丸」の一般公開には、延べ1,120の方が訪れ普段は見られないグラブ浚渫船の内部の特殊な構造や作業時の最新の施工管理方法に加え、浚渫を実際に行うグラブバケットを操作する操縦室や関連機器、同船に搭載されたグラブバケットの実際の作業風景を再現したデモンストレーションを間近に見学し、見学者からは「作業船を見るのは初めてですし、ゆっくり見学出来て楽しかった。」、「おっきい〜！すっこ〜い！」などの感想が寄せられました。

同船の公開は一般社団法人日本海上起重技術協会中部支部、全国浚渫業協会東海支部の協力によって実現しました。記念事業の主旨に賛同し一般公開の実施運営などこのイベントの成功に大いに貢献していただいたことを受け、第361良成丸に当事務所長から感謝状を贈呈させていただきました。

本見学を通じ海洋文化への関心の向上とともに港湾の役割、港湾整備の重要性についても広く関心を持っていただく有意義なイベントとなりました。



＜第361良成丸  
デモンストレーションの様子＞



＜感謝状贈呈＞

## 浚渫（しゅんせつ）兼油回収船「清龍丸」一般公開

7月27日（土）、28日（日）の2日間、清水港日の出ふ頭にて、中部地方整備局の浚渫（しゅんせつ）兼油回収船「清龍丸」の一般公開を行いました。

清龍丸（全長104m、約4800トン）は通常、名古屋港で航路の整備（浚渫<sup>しゅんせつ</sup>）を行っていますが、災害や事故により、海へ大量の油が流出した場合には、速やかに流出現場に向かい油回収を行います。また、東日本大震災や熊本地震、平成30年7月豪雨などの大規模災害時には、緊急支援物資の輸送や被災者への入浴支援などで貢献しています。

一般公開2日目（28日（日））は晴天に恵まれ多くの家族連れなどが日の出ふ頭を訪れ、中には新聞記事を読んで見に来たという方や、日の出岸壁の船舶イベントには必ず来るといふ男性などもみえて、清龍丸の油回収の仕組みを学んだり、乗組員の生活について質問したりして、多くの方に清龍丸を体験していただきました。また、子どもたちは船内スタンプラリーや、清龍丸を訪船した清水区広報キャラクター「シズラ」との記念撮影などを楽しんでいました。

一般公開には延べ716名の方が乗船し、清龍丸が担う多くの重要な役割を知っていただく良い機会となりました。



＜浚渫兼油回収船「清龍丸」＞



＜船内システムを見学＞



＜清水区広報キャラクター「シズラ」と記念撮影＞

# 【トピック】清水港の歴史

清水港は、我が国を代表する国際貿易港であるとともに、近年は、多くのクルーズ船が寄港し国内外の人々が訪れ賑わう港として地域の暮らしや経済を支える重要なインフラとして今も発展を続けています。

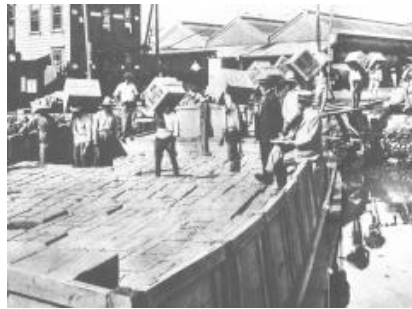
清水港のルーツをさかのぼってみると、古くは原始的な渡し場であったと考えられ、齋明天皇在位の頃（660年頃）、百濟援助の軍船が清水周辺で造られ、多くの軍兵が出発したと推測される記録が日本書紀に残っています。江戸時代になると、巴川の河口沿岸が湊として発展し、江戸、大坂と東海、甲信各地域との物資輸送の中継基地・清水湊として多くの廻船で賑わい、発展を遂げてきました。



明治時代に入ると、地元の民間有志により外海に波止場が築造されるとともに、静岡茶の積出港として当初は横浜港へ多くのお茶が運ばれていましたが、地元の熱心な請願活動が実を結び1899年に開港場に指定されると、清水港は静岡茶を直接海外へ輸出する貿易港として発展を遂げます。その後、お茶やマグロ油漬け缶詰などの輸出で栄え、戦後の高度経済成長期には工業港として、その後は国際コンテナ物流の拠点としての地位を確立していきました。



＜波止場の風景＞



＜茶の積み出し風景＞



＜1970年コンテナ船初寄港  
「パシフィック・バンカー号」＞

※出典：清水港開港100年史（静岡県発行）

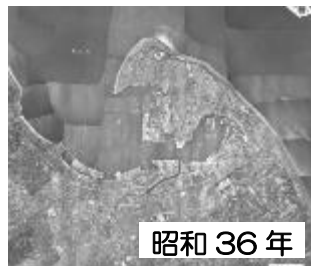
近年は、国内RORO船航路が就航し北海道から九州まで繋がる国内海上物流の拠点として、また、国際クルーズ拠点としても指定されるなど、国内外のモノとヒトで溢れる港として、多様な役割を担い発展を続けています。

また、清水港湾事務所の歴史も清水港とともに歩んで参りました。1921年に内務省の清水港修築事務所として発足されて以来、約100年にわたり清水港の整備をしてきました。戦前においては日の出岸壁、富士見物揚場等の大型施設の整備、戦後においては、富士見、興津、袖師等の大型岸壁や外港防波堤の整備により清水港の発展に努めてまいりました。その時々で、清水港に関わる皆さまには、それぞれのお立場からご指導、ご鞭撻をいただいております。

清水港は、現在では我が国有数の国際貿易港として、またクルーズやマリナーレジャー、海洋研究などの拠点として発展していますが、過去に何度も危機的な状況を迎えつつ、その都度、地元の関係の皆様のご尽力のもと大きなハードルを乗り越えて参りました。そして来年度には、清水港と山梨県や長野県を結ぶ中部横断道の全線開通や新東名高速の神奈川県区間の供用が控えており、清水港を取り巻く環境も劇的な変化が見込まれています。先人たちが大切に築きあげてきた清水港を次の時代へしっかりと受け継ぎつつ更なる進化を遂げるために、当事務所も関係者の皆さまと一丸となってその一翼を担ってまいりたいと考えております。



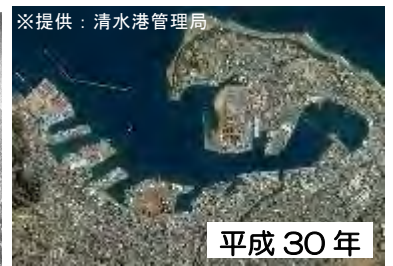
昭和22年



昭和36年



昭和56年



平成30年

＜航空写真で見る清水港の変化＞

※提供：清水港管理局